謝　辞

本論文は,大学の卒業研究も含まれていますので,およそ8年の歳月を経て執筆することとなりました. いまこの8年を振り返ると,本当に数多くの方々のご協力をいただいたことを痛切に感じます. ここに記して,感謝の意を表したいと思います.

まず,はじめに,吉田富二雄先生には,指導教官として長きにわたり懇切丁寧なご指導をいただきました. 先行研究の検討から実際の実験や論文の書き方まで,お忙しい中,休日や深夜を問わず,親身になってご教唆いただきましたことを心より感謝いたします.

また,堀 洋道先生以下,山本眞理子先生,松井 豊先生,遠藤公久先生(現日本赤十字看護大学)今野裕之先生の社会心理研究室の諸先生方,宮本聡介先生(現常盤大学),岩尾征樹先生,下村英雄先生(現日本労働研究機構),原奈津子先生(現就実女子大学)の先輩・同僚諸氏には,折りにふれ貴重なご助言をいただきました.

実験を行うにあたって,貴重な授業時間を貸してくださった沢崎達夫先生(大正大学),および,被験者の募集に協力してくださった筑波大学心理学系の先生方にも,深く感謝いたします.

そのほか,原 奈津子先生をはじめ私の同期入学者の先生方には,中間論文の執筆時など,自分の研究で忙しい合間をぬって,私の研究に協力していただきました.

最後に,研究を行うにあたって,筑波大学および大正大学の数多くの学生に実験協力者として,あるいは,被験者として参加していただきました. みなさんのご協力なくして,この論文は成り立ちません. 抽象的でわかりにくいテーマの実験に,多くの方が辛抱強く最後まで誠意をもって回答してくれたと思います. み

なさん一人一人に,厚く感謝致します.

さて,この論文もいよいよ完成の運びとなりました. 私の妻や両親をはじめ,友人たちに長い間「まだか,まだか」とやきもきさせたことと思います. やっと肩の荷が下りたところではありますが,私の研究者人生もまだまだあるわけで,ようやくスタート地点に立ったばかりであるとの思いを強くしています. 家族や友人たちには,これからのさらなる飛躍を誓い,恩返しをしてきたいと思います.

平成十一年一一月二十二日

久保田健市